i・report
No.470
一関出張所
一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81
Tel：0191-23-2435
Fax：0191-23-6841
ichinoseki report 2020.5.14

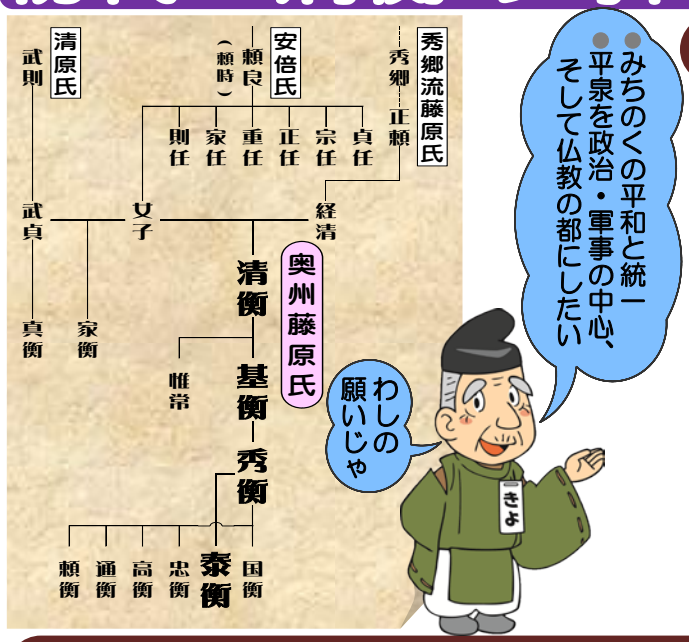
◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

北上川と共に生きた平泉文化 第3弾

―栄華をきわめた奥州藤原氏―

平泉文化の始まりと中尊寺

初代・清衡（きよひら）の時代 １１００年頃～１１２８年



清衡の願い

前九年（ぜんくねん）の合戦、後三年（ごさんねん）の合戦で生き延びた清衡は、本拠を豊田館（とよたのたち）（現奥州市江刺）から平泉に移しました。たび重なる戦の中で育った清衡が平泉で第一に目指したことは、「争いのない浄土（じょうど）」を造ることでした。

清衡は、京都からの偏見（へんけん）・差別がある限り、みちのくに平和はないことを知っていました。そのため誰もが平等に成仏（じょうぶつ）できると説く仏教をよりどころとし、みちのくの中央に中尊寺を建立（こんりゅう）、京都の文化を導入しながら、京都から一目（いちもく）おかれる平泉文化をうち立てたのです。

金色堂を建立

金色堂新覆堂（こんじきどうしんおおいどう）
文化財保護のため、現在金色堂はコンクリート製の覆堂で囲われていて、ガラス越しに一面黄金色に輝く金色堂内部をみることができます。

金色堂内陣中央壇（こんじきどうないじんちゅうおうだん）
4本の巻柱や仏壇、白く光る夜行貝の細工、透かし彫りの金具・漆の蒔絵等、平安時代後期の工芸技術で美しくおごそかに飾られています。

金色堂は、1124（天治元）年、清衡によって建立されました。内外ともに、金箔（きんぱく）を押してある阿弥陀堂（※あみだどう）です。

内陣（ないじん）は漆芸（しつげい）と金工（ごくらくじょうど）の粋を尽くした平安仏教美術の傑作で、極楽浄土を表現しています。

※阿弥陀堂・・・
阿弥陀如来を本尊とする堂

中尊寺建立供養願文（ちゅうそんじこんりゅうくようがんもん）

清衡は、前九年の合戦で父・経清（つねきよ）を失い、後三年の合戦では、家族の内紛（ないふん）により妻子を失いました。このようなつらい体験をした清衡だからこそ、争いのない浄土を目指す気持ちが誰よりも強かったといえます。清衡は、諸堂（しょどう）が完成したとき『中尊寺建立供養願文』を読み上げています。

これは、「奥州の戦乱で亡くなった多くの人の霊を弔（とむら）い、敵味方はもちろん、鳥や獣、虫類にいたるまで、極楽往生（おうじょう）できるように」と願いを込めて書かれたものです。

※北上川学習交流館　あいぽーと展示資料より

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/syuttyoujyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
第1弾　NO.467　第2弾　NO.468　第3弾　NO.470

編集後記
以前、金色堂を拝観しました。上記にもあるようにただ金箔を貼っただけではなく、工芸技術による装飾が細部にまで丁寧に施され、素晴らしかったです。清衡氏の思いの強さを感じました・・・✿(や)